

平成28年度事業報告

I 概要

1. 総括

【企画会議】

企画会議は、各専門委員会委員長で構成し、委員会間の意思疎通を図り、理事会及び専門委員会の円滑な運営が行われるように取り組んできたところである。

センターの現状を顧みると、平成28年度末の会員数は256名となり、平成27年度末会員数268名と比較し12名の減となった。退会の理由としては、加齢が主であるが、定年年齢の引き上げによる入会者の減少も一因と思われる。今後も会員と役職員が一体となって、「一会員一入会」運動を継続し、会員拡大に取り組んでいく。

一方、シルバー人材センター事業については、会員の熱心な活動により、派遣事業ともに前年度より実績は増加しているが、1億3千万円という目標値には届かなかった。今後も継続的な発注を確保すると共に、新規の受注開拓に取り組んでいく。

企画会議独自の活動としては、役職員ボランティア活動を企画・実施しているが、平成28年度も平成27年度同様、大口ふれあいセンター周辺の剪定、除草、清掃等を実施し、市担当課からも高く評価されている。

ボランティア活動は、センターが積極的に取り組むべき活動の一つであり、今後も役職員が率先して、市民に歓迎されるボランティア活動を続けていきたい。

また、就労相談日を毎月第4水曜日に実施しており、年間を通して、一般市民からセンター入会等の相談窓口を設けている。件数は多くないが、入会に関する問い合わせや就業上における悩みごとの相談などがあり、今後も会員拡大や退会会員の減少を目的とし、継続していく。

ワークプラザに関しては、今後も会員の要望に応えるべく施設整備を進め、センターの拠点として、会員が集う文字通りワークプラザにしていきたい。

【事業推進委員会】

平成28年度も、シルバー人材センター事業の効果的な事業推進と会員拡大を目的として取り組んで来た。

具体的には、定時総会、行政機関との懇話会、市議会議員との懇話会を実施するとともに、役職員独自研修を行った。

行政機関との懇話会は、平成28年10月12日に、伊佐市長他23名の各課長、センターからは、理事長他理事、監事、委員等30名が出席し、センターの概要説明と事業内容、会員の活動状況についての意見交換を行った。活発な意見交換を行うことができ、有意義な懇話会を開催することができたと思われる。

市議会議員との懇話会は、平成29年2月3日、伊佐市議会議員他15名、センターから理事長他理事、監事、委員等23名が出席し、センターの事業内容と会員の活動状況等について説明を行った。まだ、シルバー人材センター事業に対する理解が十分得られていないため、今後もより一層の理解が得られるよう努力していく。

内部の事業としては、平成28年7月25日に、役職員独自研修を実施し、役職員43名

が出席した。事務局による「理事会・専門委員会の役割と組織のあり方について」をテーマとした講話と、全体意見交換を行い、役職員の資質向上に努めた。

苦情があった場合、迅速に対応することに留意しており、発注者に納得してもらう事後処理と、担当した会員への注意喚起等を行い、再発防止に努めている。発注者あつてのセンターであるため、不快な思いをさせるということは残念なことであり、発注者に喜んでいただき、苦情が限りなくゼロに近づくように心掛ける必要がある。

利用者アンケートについては、平成28年4月から平成29年3月までの間に、58件の回答があり、仕事の満足度については、満足が46件、普通が10件、不満が1件(無回答1件)であり、また利用回数も2回目以降が多数を占め、誠実な就業が次の発注へ繋がっていくことが回答結果からもうかがえた。

また指定管理については、「ひしかり交流館及び菱刈パークゴルフ場」の指定管理者に応募したが、選定されなかったのは残念な結果であった。

【組織管理委員会】

組織活動については、センター理念に基づき、地域を単位に編成している「地域班」及び各職種毎の「職域班」が、会員の自主的な活動を基本として実践している。

「職域班」については、新会員を対象とした『会員研修』を実施し、センターの基本理念や就業方法などの研修を行った。

発注者へのスムーズな対応は、就業上、会員として必要なものであるため、今年度も継続して、『接遇講習』を実施した。全会員対象の講習会として実施したが、前年度と同じく、全会員が受講出来なかった。

ボランティア活動については、今年度も地区別及び全体活動を実施し、全体活動では、小学校の環境整備活動を行い、学校側より非常に喜ばれた。地域に喜ばれるセンターを目指し、平成29年度も市内小中学校にてボランティア活動を行うこととなった。

今後も多くの会員が参加していけるよう啓発活動等に力を入れていく。

入会希望者に対しての入会説明会については、『入会説明書』と『シルバー人材センターのしおり』を利用し、センターの基本理念と仕組みを理解できるように、実施している。

また、新会員については、1会員1入会運動を展開しているが、昨年度より会員数が減少したため、今後も更に会員拡大に力を入れていく。

【就業管理委員会】

普及啓発については、街頭キャンペーン、行政訪問活動、広報活動車による広報活動等を継続的に実施した。

会員自らの手により計画・実施した『伊佐シルバー祭り』については、今年度は20周年記念式典関係のため、主にグラウンドゴルフ大会のみの開催となったが、多くの方々が参加され盛況であった。

今後も、センターの大きな事業として、充実したイベントの計画・実施が期待される。

その他の活動としては、『シルバーふれあいショップ』を含めた市内の施設に、入会説明会の日程や各種講習会等を掲示し、地域に情報発信をしている。また、普及

啓発月間中、全会員によるチラシ配付活動を推進した。今後も地域に情報を継続的に発信しながら、会員拡大の課題に取り組んでいくこととなる。

『植木剪定スクーリング』については、公益事業の1つとして、今年度も多くの方からの申込みがあった。また受講者の中には、センターへ入会される方もおり、講習会を通じてセンター事業が、地域に浸透してきていることが感じられた。

事業実績については、昨年度より増加した契約金額となったが、会員数については、入会会員の減等により減少した結果となった。

『ふるさとを守るおたすけ事業』及び『高齢者活用・現役世代雇用サポート事業』により配置された事業コーディネーターによる、積極的な就業開拓等の活動によって、事業実績増加の一因となったことは評価できるものであった。

【福祉・家事サービス委員会】

福祉・家事援助サービスについては、地域就業機会創出・拡大事業として平成28年度から「健康長寿ふれあい事業」が開始となった。「頭の体操教室(認知症予防事業)」は受講者から大きな支持を得ており、今年度はふれあい教室として開講した。健康長寿ふれあい事業は、高齢者のふれあいを中心とし、ふれあい教室(頭の体操教室)に加えて、介護予防を目的とした専門指導員による健康体操や、市内史跡探訪教室、幼稚園児との交流等を実施した。さらに高齢者等のふれあい・憩いの場として、市内の空店舗を活用した「シルバーふれあいサロン」を開設し、少しずつ地域に浸透してきている。

〔ふれあい教室受講者実施状況〕

実施校区	伊佐市委託事業			
	受講者	修了者	開設日	延受講者数
大口	30人	30人	36日	942人
菱刈	16人	16人	36日	502人
山野	19人	16人	36日	516人
本城	15人	13人	36日	382人
羽月	16人	16人	36日	508人

介護予防事業については、大口・菱刈地区ともに2回ずつの計4回実施し、市報や前回参加者への通知により、多くの参加者を得ることが出来た。参加者から高い評価を得ているため、指導にあたる会員の更なる意欲と資質向上を目指す。

〔介護予防事業実施状況〕

実施日	実施場所	実施内容	参加状況	
			一般	会員
5月9日(木)	こころ館	軽い運動、歌、お手玉遊び	15人	5人
8月26日(金)	まごし館	輪投げ、懐かしい歌、お手玉	12人	10人
11月25日(金)	こころ館	講師によるやさしい手話	12人	9人
1月27日(金)	まごし館	スカットボール、お手玉、歌	17人	7人

子育て支援事業については、『放課後児童健全育成事業(児童クラブ)』と『放課後子ども教室推進事業(いさKCC)』を軸に、市や学校の協力のもと、充実した活動を実施することができた。

〔放課後児童健全育成事業実施状況〕

	開設日数	登録児童数	平均利用児童数	延利用児童数
山野児童クラブ	293日	24人	17.9人	5,266人
羽月児童クラブ	293日	26人	15.6人	4,590人

〔放課後子ども教室推進事業実施状況〕

小学校区名	針 持	菱 刈	田 中	湯之尾	本 城	南 永
登録児童数	6人	10人	0人	2人	4人	6人

講習会については、子育て支援講習会や料理講習会を実施し、会員毎の就業機会の拡大やスキルアップに繋がる良い成果が得られたことから、継続して実施する必要があると思われる。

〔講習会実施状況〕

講習会	実施日	実施内容	参加状況
料理講習会	7月8日	麺を利用した料理、ドレッシングレシピ	24人
	12月7日	家庭で出来るお正月料理	24人
子育て支援講習会	9月9日	子どもとの関わり方と言葉かけについて	16人
	2月22日	子どものための危険予知トレーニング	14人

また、普及啓発活動については、年2回の事業所訪問及びイベント時に啓発活動を実施した。

【独自事業管理委員会】

独自事業については、センターの特性を活かしながら、会員の自主的就業活動の場として安定した事業を展開してきた。

「門松事業」は、前年度の台風被害の教訓から、飾り物の材料(松、南天、ゆずり葉)を安定的に自前で確保できるよう挿し木などの育成に努めたため、良質の材料が確保できた。今後も安定的に供給できるようにしていく。「刃物研ぎ事業」は、シルバーふれあいショップを通じて固定客はいるが、今後も講習会を継続して実施し、引き続き地域にPRをおこなっていく必要がある。「竹ほうき作り事業」は、他団体が開催する講習会に参加し、使いやすい竹ほうきに改良する努力を行った。今後は製作本数を増やし、イベント等で販売していく。「手作り加工部つくしんぼ」は、あくまきや餅が好評であり、イベントでも売上げが順調に伸びてきている。今後も安定した商品提供と新商品開発を目指す。

「シルバーふれあいショップ」は、売上げが減少してきているため、トマトなどの野菜等や苺を安定的に供給できる仕入れ先を複数確保していく。今後も目玉商品の充

実と、イベントなどへの積極的出店を心掛ける。

平成28年度は、高齢者等の憩いの場として、空店舗を利用した「シルバーふれあいサロン」をオープンすることができ、徐々に地域に浸透してきている。現在は週1回の営業であるが、今後は手芸・竹細工講習会や各種打ち合わせの場として活用するべく、PRをおこなっていく。

しかしすべての事業において後継者育成が課題であり、新会員の確保が急務である。

【安全委員会】

平成28年度事業計画に基づき、安全委員会及び安全委員会対策員会議を中心に安全就業の推進に取り組んできた。安全適正就業強化月間には、就業現地パトロールによる、安全・適正就業に関する指導・助言を行った。

安全就業に係わる講習会、研修会も積極的に開催し、傷害事故や健康障害が起こらぬよう、会員一丸となって取り組んできたが、結果は物損事故が12件、傷害事故が4件発生した。今後も事故防止へ向けての会員指導を徹底し、各種講習会の実施や啓発活動に一層傾注し、安全委員会が中心となって事故のないセンターを目指し、全員参加の体制で安全就業に取り組まなければならない。

過去5年度間の事故発生件数

事故 年度	発生件数		
	傷害	物損	合計
24年度	0件	5件	5件
25年度	2件	5件	7件
26年度	3件	11件	14件
27年度	6件	14件	20件
28年度	4件	12件	16件

2. 理事会 平成28年度の理事会は、8回開催した。

理事会は、センター業務の運営上必要な事項について、総会に次ぐ議決機関であると同時に、最高の執行機関であるので、センターの発展のため、理事会を中心とした専門委員会活動の充実とセンター運営の統括を図るため、三役会議で各情報を収集し、各委員会へ反映させた。更に、センター事業の変革に対応するため、三役会議・企画会議での十分な協議により、理事会運営の強化も図った。

3. 組織活動

(1) 地域班

今年度も地域班において自主的な会合が開催され、「シルバー伊佐」の配布、会員への連絡事項等、地域班におけるシステムが定着していることは、世話人を中心とした会員の協力体制が充実してきた現れである。今後は、更に一つ上の活動を目指し、全会員の率先した協力による活動が求められる。

(2) 職域班

会員への就業依頼を世話人・班長により行う、自主就業体制に基づく班運営も定着しているが、世話人・班長の努力によるものが大きい。安全面及び後継者育成のため、班長の定年制度が導入され、今後も会員の率先した協力が求められている。

また、今年度実施した講習会は、次のとおりである。

- ① 接遇講習会
- ② 会員研修
- ③ 機具取扱講習会(刈払機・チェーンソー・トリマー)
- ④ 植木剪定スクーリング

4. 安全就業対策

会員の安全就業は、みんなの願いであり、大切な事項であるため、安全委員会及び対策員会議において、安全就業実施計画書を基に会員の無事故対策が講じられた。

- (1) 安全就業マニュアル・安全就業実施計画書に基づく安全就業の徹底
- (2) 安全就業の日朝礼式及び安全就業現場パトロールの実施
- (3) 交通安全キャンペーンによる交通安全及びセンターの普及啓発
- (4) 交通安全に関する講習会の実施
[交通安全講習会, 車両安全点検講習会, 車両運転技術講習会]
- (5) 安全就業に関する講習会の実施
[救急講習会, 刈払機・チェーンソー及びトリマ取扱講習会]

5. 普及啓発関係

平成28年度は、就業管理委員会を中心に、役員・会員による様々な活動を行った。

- (1) 事業啓発街頭キャンペーン
- (2) 伊佐シルバー祭りの開催
- (3) 行政訪問活動並びに集客場へのパンフレット等の配置
- (4) イベント時におけるチラシ配布等
- (5) 新聞・行政広報誌による地域への広報(入会説明会・講習会日程等)
- (6) 広報車による啓発活動

6. 福祉・家事援助及び育児支援サービス事業

福祉・家事サービス委員会を中心に、組織的活動としては一定の活動が行えた。

しかし、家事介護援助サービスや配食サービス等、就業会員が少ないことから、会員獲得が緊急の課題であるため、今後もイベント時における啓発活動が必要となる。

育児支援事業については、市委託事業を中心に様々な事業に取り組んでいるため、今後の活動が期待される。

- (1) 高齢者等を対象とした配食業務・安否確認の実施
- (2) シルバーハウジング(高齢者住宅等安心確保事業)の実施
- (3) ふれあい教室(認知症予防事業)の実施
- (4) 児童クラブ(放課後児童健全育成事業), いさKCC(放課後子ども教室推進事業)の実施
- (5) ほほえみ会定例活動の充実
- (6) 講習会の実施[料理講習会, 子育て支援講座]

7. 独自事業の展開

独自事業は、会員自らの創意工夫により、趣意を同じくする会員が実施する事業で、

就業開拓の大きな位置づけとなる。今後も、独自事業管理委員会を中心に現事業の拡充並びに新規独自事業の研究開拓を推進する。

後継者育成としては、定期的な講習会を開催し、独自事業会員の拡充を図った。

また、独自事業会員の資質向上を図るための研修等も実施した。

(1) 独自事業実施状況

- | | |
|------------------|--------------------|
| ① 門松製作事業 | ② 手工芸製作事業(しめ縄製作事業) |
| ③ 花卉・園芸栽培事業 | ④ 製炭事業(木炭・竹炭) |
| ⑤ シルバーふれあいショップ事業 | ⑥ 刃物研ぎ事業 |
| ⑦ 竹ぼうき作り事業 | ⑧ 手作り加工部 つくしんぼ |
| ⑨ シルバーふれあいサロン | |

(2) 講習会等実施状況

- | | |
|-----------|-----------|
| ① わら細工講習会 | ② 刃物研ぎ講習会 |
|-----------|-----------|